

創刊120周年

幼児の教育

2021

秋

— since1901 —

子ども学の源流を次世代につなぐ

第
四
号

第
三
〇
巻



森の中で。

今ではすっかり

「わたしたちの」秘密基地。

子どもの情景

幼児の教育 秋 2021

第120巻 第4号

写真

子どもの情景 1

目次 まと

暮らしの彩り―祭りの記憶 2

特集

創刊120周年記念

『幼児の教育』120年。

未来に何をつなぐのか 3

子どもの暮らしと行事

―祭りに着目して 4

《座談会 2021》

松延毅・西野博之・加藤理・菊地知子 5

《アーカイブズ》

「『小鳥の死』または『園行事』のこと」

間藤侑

―『幼児の教育』第82巻第11号
(1983年)から― 22

実践

私の保育ノート

子どもは世界と出会い、
生きることを感じている

関山隆一 24

保育をつなぐ

～お茶の水女子大学附属幼稚園からの発信～
Vol.11
保育者としての歩みを振り返る

伊集院理子 28

連載

「育ての心」で語りあう

～動画を囲んだDX時代のカンファレンス～

Vol.3

「コミュニケーションと心地よさ」(下)

溝口義朗・平賀努・中村則仁・
野村幸子・久保健太

34

視点

行事を楽しみましょう
～季節とともに・自然とともに～

たけのぶさな 40



目次

表紙の図柄は、1901年に創刊された弊誌第1号の表紙図柄（荒木十畝・画）をデザイン化したものです。

視点

チャレンジスクールの日々
「子どもの発達と保育」の授業を通して

片岡知子

44

文化

鎌倉おもちゃ屋物語 その11

黒須和清

49

探究

乳幼児の学びの理論としてのドウルース／
ガタリ理論

久保健太

62

子どもたちのこと

イベント・メディア情報
読者投稿・編集後記 他

63

まど ■ 暮らしの彩り — 祭りの記憶 ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

今号の座談会は「子どもの暮らしと行事―祭りに着目して」をテーマに、こども園やブリーダーをフィールドとする実践者と児童文化研究者がじっくりと語りあった。三者の語りを聞いていると、子どもたちの歓声や街のにぎわい、祭りばやし聴こえてくるように感じる。報告されているのは地域の祭り子どもたちがつくる祭り。祭りの在り方は違っていても、共通に流れているのは、祭りにぎわいのように思う。それは一人ひとりの原風景の中に深く残っていくものだと思う。

「人々が集う」ということに困難さが指摘されるようになって久しい。教育現場や地域で行事を企画する際にも、集中よりも分散を心がけ、適度な距離感を保つことに心を砕く。大人数が集まることを目標としていた考え方を変え、適度な人数で楽しく過ごすことが目指されるようになった。互いが穏やかに語りあい、空気がゆるゆると流れるような適度な距離感の中で過ごしながら、私たちは豊かな方向転換をしたのかもしれないという思いが浮かぶ。暮らしの中にあるさまざまな彩りを自分のタイミングでゆっくり味わう、豊かで緩やかな祭りの記憶が、今を生きる子どもたちの中に原風景として大切に残っていくことを願って。

(中川)

編集後記

10年前の110巻から季刊誌としてお届けしている本誌ですが、今回の秋号はまさに「秋」「祭り」「自然」といった日本ならではの行事や四季と結びつく話題が満載の号になっています。すとうあさえ氏は「秋は私の一番好きな季節です」と始め、「保育ノート」の関山隆一氏は「自然には子どもたちを夢中にしてくれる何かがある」と断言されています。座談会では、伝統的な地域の祭りと子どもたちの話から、子どもたちと大人でつくっていく新しい行事の話につながっていきました。「秋」は、ハレの日、ケの日、粛々と営む暮らしについて考えるのにぴったりの季節ということなのでしょうか。

さて本誌が、同じフレーベル館発行の『保育ナビ』

9月号で、「創刊120年に寄せて～120年、何に悩み、何を想う 変わらない保育者のまなごしを次世代へ」という論点で特集されました。「子どもにとって何が最善かを、子どもを軸に置き、語る」を創刊以来根本に据えて刊行してきたことをテーマに、編集に携わる者たちが語りあう座談会を行いました。また、時代に翻弄されつつも、子どもへの最善の策を模索する研究者や教育者の姿が『幼児の教育』を通して見えてくる内容になっています。ぜひ『保育ナビ』9月号も手に取っていただければと思います。「子どもを軸に置き、語りありますか」「目の前の子どものために何が最善か、考えていますか」と改めて自分に問うきっかけになるように思います。(TY)

次号予告 幼児の教育冬号 2022年1月刊行予定

創刊120周年。歴史を生かし「今」の保育をどうするか。

◇ 『幼児の教育』120周年。未来に何をつなぐのか 4
座談会 戸外保育、散歩と保育(仮題)
坂本喜一郎氏、野村直子氏 ほか

◇ 論考「さんぼ」 三輪律江氏(横浜市立大学)

◇ 「からだのはなし ～乳幼児期の性教育を考える～」
北山ひと美氏(和光小学校・幼稚園)

※タイトル内容が変更になる場合もあります。

幼児の教育 秋号 第120巻 第4号

令和3年10月1日発行

編集発行人/浜口順子

編集担当/田中恭子

発行所/お茶の水女子大学

『幼児の教育』編集委員会

〒112-8610

東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学

浜口順子研究室内

youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

発売所/株式会社フレーベル館

電話: 03-5395-6604 (編集)

振替/00190-2-19640

印刷所/図書印刷株式会社

定価/968円(本体880円+税)

©お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会

2021 Printed in Japan 無断転載禁止

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします。

編集委員/菊地知子

久保健太

高橋陽子

松島のり子

宮里暁美

お茶大3園合同研究会

(附属幼稚園、

いずみナーサリー、

文京区立お茶大こども園)

編集協力/フレーベル館

● ご購入のお問い合わせは、フレーベル館までお願いします。03-5395-6613 (営業) ●